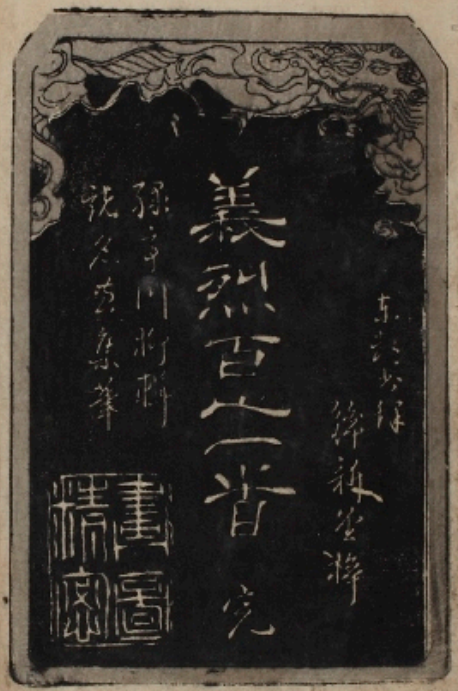


義烈百首序

哥言其志故使誦者興其善心畫貌其狀故使觀者想其風采然而哥者詞意婉曲非幼子少婦之所能解畫則披覽了然凡有目者皆可以弁貴賤敘愚之分矣是以合二者而後可以得全勸善之道川柳翁所著義烈

百首写其肖像又係以其哥可
謂勸善之道備焉故戲翁之憂
世也其亦厚矣剞成請序於余
余嘉其志贊數言於其端而与
之

嘉永二己酉冬

尾陽　文嶺原田記撰

雄長島芳麓安書

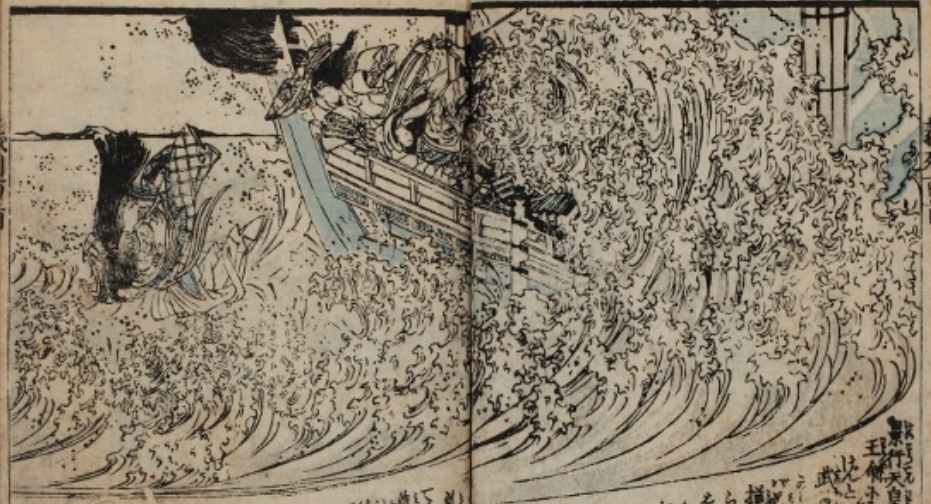
百人一首は和歌小倉山の時雨亭より世ふつ
そうして老婆歌に教せてそれ世ふ志うるに世ふ極の
糸ぢうりくふ妻ふうる三毋山月社三のまて六社ふ
様ふ宮一八幡尾社稲のふりをうりをひをうりなる
社酒ふ宮ふ宮ふ深しふのうすはるをるをうふ海山房乳
みさ社事ふ宮ふ深ふ海ふ海ふ魚をもとふ宮根社
松のこふ宮ふ浅拾ふ稲倉山社岩ふ書歌の宮乃
跡ふ宮ふ一ふのふ社のふ宮ふ明ふ社海ふ宮ふ集

[illegible]

義膽貞肝忍苦辛令
名奇績照穹旻請看
端力穹精効豈盡尭
資聖哲人

尾陽　文嶺道人

嘉永三年春　篠亭川柳誌



源実朝公
君が代も
あわれ
はかなく
怪右乃
松も
ちとせ
わしひかせる

紀伊守花光
八田知家

郎の君
我もむ
文覺上人

阿野全成
東をぞれば
武ぬく敵の
のつ雲
みなら
風ふ
まづ
ちる
秋萩
乃はな
塩屋左衛門尉維茂
うせそこの都とも
ちづ海士
小弟
みち
ぶく
波の
ふ
波
ゆうせこく

平泉助公
昔にもあらざる
夜半
の
ふる
ちよのひの
月
墨
ゆるるか
熊谷直実
敦盛の
剣
く
も
の
の
ふ
の
ち
後
ふるさと

北條相時

あぬ人の面白

さそふ

ひとを

ぬけまゐ月を

なみ恨ける

白拍子微妙

元昌にぬせる

旅人

あれ

七

たづねる星

菊七さぞあず

松浦局
あぢきなくみの目よ
とをまて
稚の
いつかなれて
春にあふらん
佐渡の前司義綱
のさやぐ
夜ろ
山風ふ
空さえ冴る
ひの本の春

高橋神次
駿河守重時

のとる月のげ
滅み
老忘
て
名あ
夢の
背の
夜ね
東遊
虎義京縅
夢禁のこ
夢け
あのべき
姿
そとる
我神
ねのし

上野十郎朝村

上野十郎朝村は其の名を巻ものあるる所に見えを神軍の供奉仕る京王殿の公右の方の供奉の者の中に小さき猛王殿の公の方の供奉の者の中に小さき猛王殿の公の方の供奉の者の中に小さき猛王殿の公

武蔵坊長時
小串範秀

宗尊親王
むつ雲乃
踊子乃
ちぐ
うつる
風紙さよ
本の
太伝大平
あ
ま
ま
ま

上杉景勝
山城伯耆守頼貞

六角左衛門氏頼
大高重成
郡司
山蔭

道場坊祐覺
おほうの
年の
暮ぞ
と
思ひ
寒死
のはてを
今宵ありけり
菊地次郎武士
花のごとく
散りて
ごとく
この
桜と
ひのこと
のこせる
水茎はあり

楠正行の母
世乃憂を
はらひぬる
あのぶ
ぶ
北畠顯家卿夫人
世乃
あらん

佐々木高秀
斯波氏経

殿屋義治室
ゆこまんと
たのむ
別路ハ
清原久しき
宿殘り
赤松信濃守
貞頼
数ヶ所
矛を
中く
ふ
うきこと
るひう
なすこと
ありがたきこの事

義満公足利三代目の将軍ハ
応安元年四月八日元服す
ると五月ハ桜の頃ハ
ひ寺の法と正一盛せ
止せめ風民の怨を恐い
朝一統と武家の威を
定めハ五年九月ハ
新撰の二條の殿ハ
軍を
京師
両と号ハ
元年
大臣ハ
金閣寺と号し
威を四海ハ
義満公
たのむのハ
我こころ
のみを
信じ
流れ
神こそまもるせく

細川満元
思ひ
きよ
れを
ゆくこころ
さろ
千代の
嘆る道

細川満元京大夫満元ハ応永
藤長太のハ幼君を量公を補
佐し政を
年ゆせと
公ハ代
ぬるを
ぬるを
てれ
くを
居ハ
日
忌ハ
わろう
しも
満元ハ

義嗣公
霜結ぶ
所の
淺茅うら
虫の音
秋風そ悲く
世を捨る
数ふ
淺
れ
うら
ものひとく
大森彦七尉氏頼

わたれ
小野ふ
今川六郎殺死

足利義照
蜘蛛の糸
蜘蛛の糸
蜘蛛の糸

今出川義視
園生

吉川經基
若柳伊豆守長澄

尼子經久
六角氏綱

義晴公足利十代の将軍なり

神西元通妻
思ひ沉む
みのりの舟
のけぞるたのもん
同名仕丁
のとる
とも
ぬ
やどの
ぬ
ぬ

世をそむくきぬがさの
すむ月の
恨やまこゝん
何をこのゝ
新波義銀
太閤秀吉
植木屋の
爲
今こそ春
咲れを
白しろ

大内常姫
霧はらむ
大こゝろの
のこぎり
紫
も
嵐やなんの
紅葉かな

足利義昭公
遠く世の
なのりを
かけく
ぶつのも
むら
ぶくの
ちくの
大ぶね

鳥居兵庫助元忠

あぢき
あるも
ろ
おそれしと
ものふ
新田義貞
義貞義隆父道義禅
大宮をたづ
其
仰ぐ
ものづ
ものあず
道ぶり

宿乃秋は初うせ
夕ぐれ
はて〜春さき
奇縁河内守元春
別所山城守宗
のちは世を道
迷
行末乃秋さき

別所長治室
消えつる
命とも惜まざりけり
梓ちる
末の代
すてぬ名を
とどめおきけるとかや

彫澤源
蔦
流
香川兵部大輔春綱

夜の月
曼
いくさの勇と
弓取乃数ホ
明石儀右衛門

栄田の末森
今暑さ
むしに
余の
日も
数代
只一時も
かゝてゝ
ねるこのれ
同息
岩ひきや竹内
の
宴
草
乃暑
今こそ病
くるに
きうえんの

水菓子
宇都宮鎮房女

天正の頃
中ごろ
まさきの
ほうの
かんぱく
ふじわら
たのもう

秋田城之助は天竺の男猛勝
と云人なるべし通称なるべし
年老て剛勇たり
我儕ハ
ふと外面ハ
あらはるゝ七の儀とのりまき
ちり
義ハ山ハ
甘と
ど
ア
ふ
ま
ち
ま
ま
ま

菊子
武田の松子
深やまとの
金沢の猫

豊臣秀吉
蒲生
大膳
我そ
源
義
義
義

大国二楽斎
見ひらくも
きつの
嵐ふ
こゝへ
きて
もて
つれ
うきみ
わろうあり
平塚伊藤
名のあらく
惜る
命ハ
とり
ぬ
ぬ
ぬ

二歳主
みのの縞と
清く
きよ
ゆえ
かく
ゆえ
なるぞ

伊賀術士勝雲
死出のふ
暮ひ
てう
ゆく
契わき
君ぐこ
素を
通す
杖折
山術左馬仮宅
梓ろうぎき
別を
みたよりを
あれ
身の
数とたつ
てまえよ

羽柴頼隆
華へ出
その名
だろうの
あり
ふるう
姿の波乃
春さいの者
ゑの

筒井定次
世の人さいこ
たてかる
霧出
刃の
波てい
何乃
こゝろもあられ

木下長浦の宝
命
かい
うき
ゝ
かく
何
ん
きう
と
ん
ゝ
ゝ
ゝ

常にてう
月のひろ
秀次公

佐々木六角長頼
八幡代ふるき
呉竹
幸徳
百雲
梯子
月ハ雲のくらとても
細川殿夫人
先ぞ門を
松の
限
乃
命にを
生ながらへ
袈裟の
形りまあと

輯者　緑亭川柳

畫工　口画五頁　自壹至三十　前北齋卍老人

仝　自壹至十　一勇齋國芳

仝　自十一至二十　一猛齋芳虎

仝　自三十一至四十　玉蘭齋貞秀

仝　自四十一至五十　一陽齋豐國

畸人百首　緑亭川柳輯
袋入一冊　近刻

瑞應百歌撰　緑亭川柳輯
全部十冊　近刻

嘉永三年庚戌正月發兌

東都書肆　錦耕堂　山口屋藤兵衛梓
馬喰町二丁目

東都書林

日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　貳丁目　山城屋佐兵衛
同　所　小林新兵衛
芝神明前　岡田屋嘉七
同　所　和泉屋市兵衛
本石町十軒店　英大助
芳町親仁橋角　山本平吉
大傳馬町二丁目　丁子屋平兵衛
藏山町壹丁目　出雲寺万次郎
浅草茅町二丁目　須原屋伊八
横山町三丁目　和泉屋金右衛門
馬喰町貳丁目　山口屋藤兵衛板